

ハザードマップの利用について

ハザードマップとは

発生が予測される様々な災害(洪水、土砂災害等)に対し、危険区域や避難に関する情報を地図にまとめたものです。いつ災害が発生しても落ち着いて対応できるよう、平常時から備えていただくためのものです。

- 大雨によって増水し、高山市で氾濫または決壊(破堤)した場合の水害を想定した「浸水想定区域」などに基づいて、皆様のお住まいの地域がどのような状況にあるかをお知らせするものです。
- このマップに記載した浸水想定区域は、現状における河川の整備状況のもとで、概ね50年に1回の割合で起こる大雨により河川が氾濫する状況をシミュレーションし、加えて住民の方から聞き取った過去の浸水実績情報を示しています。
- このマップに記載した土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)、土砂災害警戒区域(イエローゾーン)は、岐阜県が調査に基づき指定した土砂災害のおそれがある区域を示しています。

マップの利用方法

- ご家庭や職場等の場所をマークし、その付近の危険区域(浸水区域、土砂災害警戒区域)や避難場所を確認しましょう。また、避難する際の経路など各家庭や職場でどうすればよいかを話し合しましょう。
- 指定避難所
災害時に市が開設します。災害が長期化した場合には避難者の一時的な生活の場となります。
- 一時避難所
地域の自主防災組織、町内会等が開設します。一時的に集合して待機する場所となります。災害の状況によっては、避難者は安全な指定避難所へ移動します。
- 緊急避難場所
災害を避けるために緊急に避難できる安全な場所です。高山市では指定避難所、一時避難所を緊急避難場所としています。ただし災害の種別によっては緊急避難場所として使用できない施設があります。緊急避難場所として使用できない施設はこのマップに表示しています。
- 避難経路
このマップには安全に配慮した主な避難経路を表示しています。

ハザードマップを利用する上での注意事項

- マップの被害想定はひとつの目安です。想定を超えるような状況となることがありますので十分注意してください。
- 想定以上の洪水が発生した場合には、さらに広い範囲が浸水することも考えられます。また、このハザードマップにおいて浸水想定区域になっていない場所においても注意が必要です。
- 浸水区域・水深は、地盤の高さを50m四方ごとに設定した上で検討したものです。このため、地盤の高さが変化する場所では、想定した範囲や浸水深が実際と異なる場合があります。

